

日野市 (第3次から第4次へ) 学校教育基本構想について

令和5年11月9日
教育部教育指導課



第3次日野市学校教育基本構想 平成31(令和元)年度～令和5年度

すべての“いのち”がよろこびあふれる未来をつくっていく力

- 一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ
- 自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ
- わくわくが広がっていく環境のデザインへ

子供たちが主体となった学びへの変革

第3次日野市学校教育基本構想 平成31(令和元)年度～令和5年度

子供たちが主体となった学びへの変革

視点	管理職の声
創意工夫した学校経営	<ul style="list-style-type: none">・やりたいこと、実践したいことを具体的に考えて実施・校長の裁量性を担保しながらの教育活動の実施・「対話」を重視した具体的な教育活動の実施
授業改善	<ul style="list-style-type: none">・学習者用端末による個別最適な学びと協動的な学びの充実・一律一斉の授業形態から、探究学習の実施・児童同士の対話を大切にした授業づくり
地域等との連携	<ul style="list-style-type: none">・子供、家庭、地域、学校のみんなでつくるという理念の共有・地域や実態に即した総合的な学習の時間のカリキュラム編成・地域と連携した教育活動の推進



第3次日野市学校教育基本構想 平成31(令和元)年度～令和5年度

子供たちが主体となった学びへの変革

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行

- コロナ禍以前の教育活動ができるようになった。
- 対話や学び合いが制限なくできるようになった。
- 学習者用端末の導入により、学習活動の幅が広がった。
- 行事の精選、見直しが進んだ。



個別化・多様化する教育課題

- 多様なニーズに応える特別支援教育の充実
- 急増する不登校児童・生徒への対応・支援
- いじめ対応など児童・生徒が安心して通える環境
- 教員の働き方改革



令和4年度

- ・教育委員と校長との懇談
- ・児童・生徒、教職員等へのアンケート(14,000人以上の声)

令和5年度

- ・学校教育基本構想検討員会(年4回の開催)
- ・教職員、学校評議員、市PTA協議会等でのワークショップ(50回以上の開催)

令和6年3月 第4次学校教育基本構想 策定
計画期間:令和6年度から令和10年度



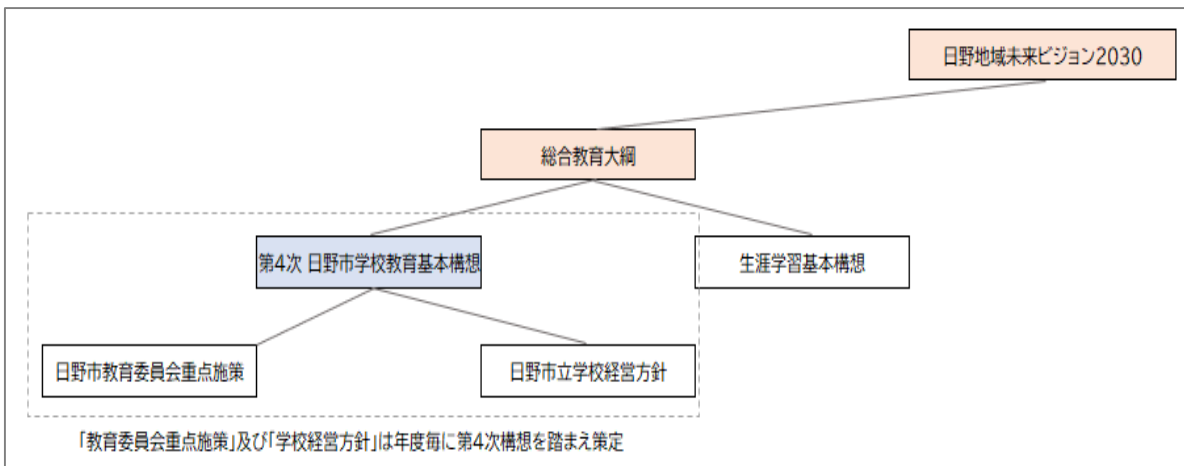
第4次学校教育基本構想策定についての基本的な考え方

- 第3次学校教育基本構想の理念を継承（第2回検討委員会で確認）
- 学校教育基本構想検討委員会は、構想の大きな方向性を決める役割
- アンケートやワークショップ、検討委員会の傍聴者など多くの方からの意見を集約して作り上げる。



1. 第4次学校教育基本構想と他上位構想との関係

1) 構想の関係



1. 上位構想(2030ビジョン)の想いを継承
 - ・日野に関わる人々の関わり合いを大切にしている構想
 - ・共に行動をする上でのヒントになっている
2. 2030ビジョンの価値観・未来像
 - ・しあわせのタネを育てあう日野
 - ・個々のしあわせを大切にしながら、共に、しあわせになる価値観

2) 4次教育基本構想に求められているもの

策定の手続・構想の位置付け	構想の目指す姿	構想の内容
<p>・第3次基本構想の理念の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの声で作成する構想 ・関係者それぞれが選択する裁量・余白のある構想 ・試行錯誤しながら肉付けしていく構想 ・策定のストーリーが迫る構想 ・子供目線を大切にした構想 ・教職員の楽しさを大切にした構想 ・何をするか、何が出来るかを明確にした構想 ・多様な子供たちにあった教育がなされる構想 	<ul style="list-style-type: none"> ・Well-beingとSustainabilityを前に進める構想 ・学校がオーナーシップをもち、応援される・元気になる構想 ・バラエティのある取組を進める構想 ・家庭・地域を含め、関係者がそれぞれの役割が明確化した構想 ・みんなの声を大切にする構想 ・子供たちが表現し合う構想 ・他者を受け入れられる構想 ・人間関係の形成 ・教職員が働きやすいシステム ・具体的なプロジェクトとそれを支える体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体の仕掛け、優先順位、展開計画が見える構想 ・子供が選択できる活動がある構想 ・方向性を行うことが分かりやすい構想 ・一人ひとりを大切に作る構想 ・家庭・地域・学校の役割が明確な構想 ・施策と指標がある構想 ・具体的なプロジェクトがある構想 ・コロナからの学びを加えた構想

2. 第4次学校教育基本構想は、みんなの声からできています



50+回のワークショップ

学校評議員
ワーク
シヨップ

教職員
ワーク
シヨップ

PTA協議会
ワーク
シヨップ

日野市立
小・中学校
児童・生徒
アンケート

14,000+人の声

日野市教育部
検討委員会

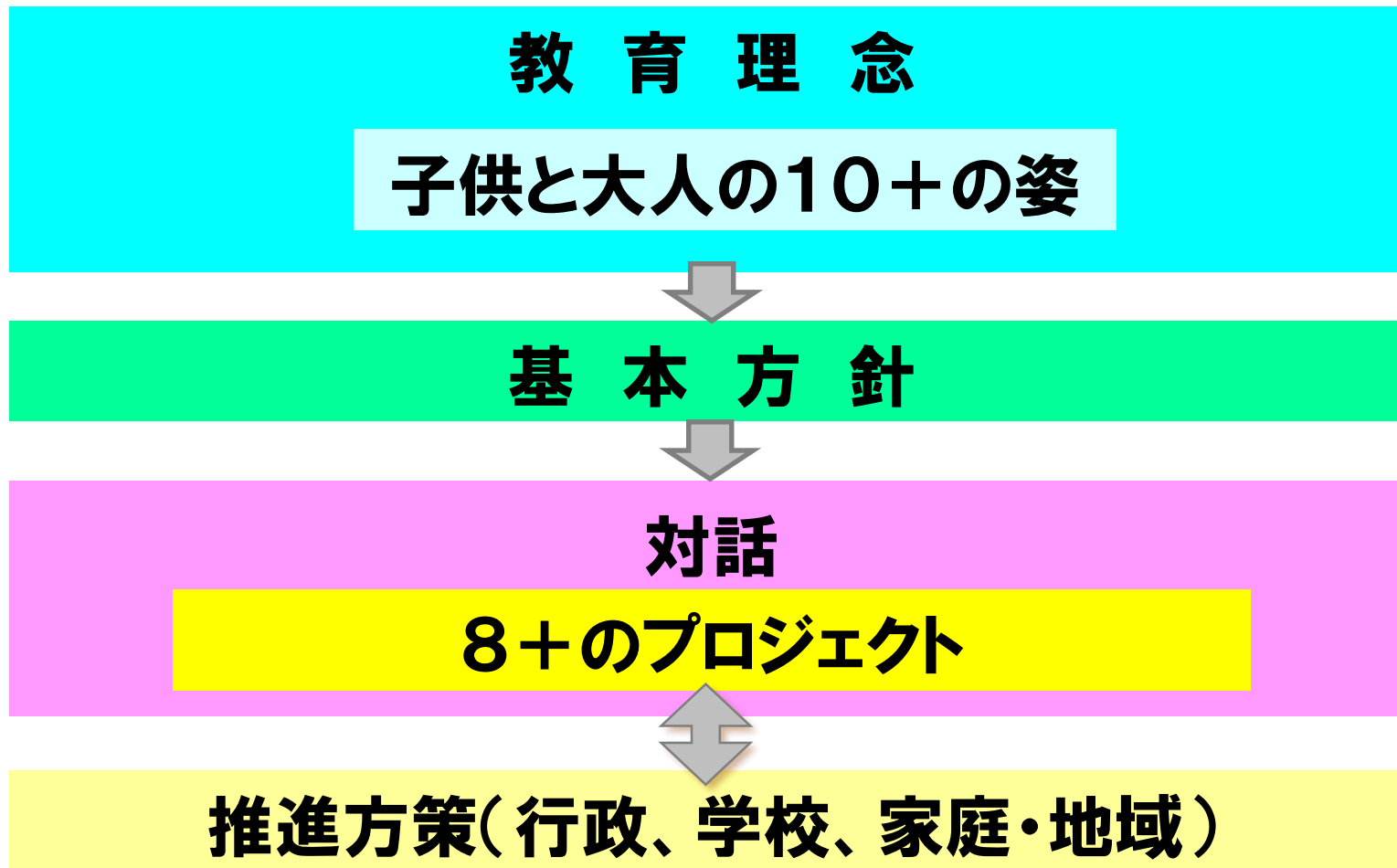
日野市立学校
管理職
との懇談会

第4次日野市
学校教育
基本構想
検討委員会

3. 第4次学校教育基本構想 全体像



50+回のワークショップ



14,000+人の声

構想の土台

第3次日野市学校教育基本構想

一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ 自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ
わくわくが広がっていく環境のデザインへ



教育理念

<子供たち自らが育んでいってほしい力>

「すべての“いのち”がよろこびあふれる
今と未来をつくっていく力」

持続可能性 Well-being 共生社会

5年後の学校の姿について《子供たちの声》

- ・今と変わらない楽しい、安心して過ごせる学校
- ・今の3年生がこの学校を良くしたいという気持ちで色々な行動をしてくれたおかげで、今、自分たちは楽しく学校生活を過ごせているのだと思います。
- ・みんなが笑顔
- ・みんなが楽しいと思える学校

第2回 検討委員会の声

- ・理念を継承する理由に、1番最初に大事にしなければいけないのは、3次構想がこれで終わり、新しい構想が始まるという考え方ではなく、3次構想が継続しながら4次構想がスタートしていく前提に立たなければいけない。そうでなければ、子供たちの思いが置き去りにされてしまう。
- ・切れ目のない構想であることが重要。

第4次学校教育基本構想の各項目 子供と大人の10+の姿



教職員ワークショップ

子供たちのウェルビーイング

早く学校に行きたい 明日も楽しみ 行く価値のある 良い場所 自分のためになる 充実
 安心・安全 笑顔 みんな幸せ みんなが楽しい 生き生き 伸び伸び 希望をもてる 未来を描ける
 「学んでいる、成長している」と実感 仲が良い 前向きに過ごせる 自信がある 優しい 明るく
 学ぶことが楽しい 勉強が分かる 意見が言える 学びの達成感 レンジ
 学校ならではの楽しみが味わえる 見てもらっていると実感

<みんなの姿>

自分と他者の多様な個性を認め合い、安心の下で挑戦し失敗し、ねばり強く乗り越える姿、
インクルージョン

多様性の尊重

個性の尊重 多様性を認め合える 一人一人が大切にされ
 平等 共生 一人一人が同じ土台にのる 自分らしく 自分の

身に付けてほしい力

基礎学力 生きる力 多様な
 主体性 自立 自分よき
 未来に希望を持ち今できること
 自ら考え行動できる 自分
 自己表現 アウトプットができる
 自分に責任をもって学習に向かう

<学校の姿>

目指す学校像に向け、
 チームとして協働し、学び合い、
 成長を実感できる姿
教職員の学び・協働・成長

<家庭・地域の姿>

生き生きとした「自分たちの学校」
 に向けて、見守り、応援し、
 ともに行動する姿
見守り・応援・協働

教職員のウェルビーイング

働きやすい 設備 ゆとり 心・時間・空間の余裕
 教員のスキルを向上 教員の仕事の7割が授業 時間講師
 子供一人一人にきちんと目を配る 業務の精査 余裕をもって

学びの環境

質の高い教育環境の整備 落ちこぼれ学習に取り組む環境 個の学び 協働 様々なことを経験できる

1. **インクルージョン**
自分と他者の多様な個性を認め合い、安心の下で挑戦し失敗し、ねばり強く乗り越える姿
2. **学びの羅針盤**
変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する姿
3. **対話**
自分たちで考え、語り合い学び合い、違いを力に世界を広げ、学び続ける姿
4. **教職員の学び・協働・成長**
目指す学校像に向け、チームとして協働し、学び合い、成長を実感できる姿
5. **多様な学び・子供の選択**
子供たち一人ひとりの多様な学びと学び方の選択・学び合いを支える姿

検討委員会

子供たちのウェルビーイング

自ら幸せな人生を歩んでいける 将来に希望をもって生きられる 笑顔 安心・安全
 「学び」と「遊び」で得られるものがある 居心地が良い 夢中になれる 学びのつながり、深まり
 友達と楽しく勉強・遊び 生き生きと活動する 自分も仲間も高まる 今もっている力を最大限に生か
 自分のペースで進んで学ぶ や課題についておおく意欲的

<みんなの姿>

多様性の尊重 変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する姿
学びの羅針盤

身に付けてほしい力

基礎学力 生きる力 多様な
 主体性 自立 自分よき
 未来に希望を持ち今できること
 自ら考え行動できる 自分
 自己表現 アウトプットができる
 自分に責任をもって学習に向かう

<学校の姿>

子供たち一人ひとりの
 多様な学びと学び方の選択・
 学び合いを支える姿
多様な学び・子供の選択

<家庭・地域の姿>

ありのままを認め、
 生き生きと遊び、
 学べる環境を支える姿
尊重・舞台

学びの環境

「共通の理念の下」で教
 時間の保証 居場所 誰から学
 ICT機器を活用して、自分が設定した課題等を自分のペースで解決していく学習が展開される学校

みんなの声をまとめました

6. **居場所、活躍**
子供たち全員の居場所と参画・活躍の機会を支える姿
7. **挑戦、応援される学校**
教職員が安心して挑戦でき、様々な関係者から応援される姿
8. **見守り・応援・協働**
生き生きとした「自分たちの学校」に向けて、見守り、応援し、ともに行動する姿
9. **尊重・舞台**
ありのままを認め、生き生きと遊び、学べる環境を支える姿
10. **ホンモノ**
ホンモノの体験、ホンモノの感動を共に味わう姿

PTA

子供たちのウェルビーイング

卒業してもまた来たい学校 学校に行きたいと思える 居心地よく過ごせる 失敗
 安心・安全 笑顔 温かい 子供の声がいっぱい 生き生き 誰にとっても楽しい 先生も子供も幸せな

<みんなの姿>

自分たちで考え、語り合い
 学び合い、違いを力に
 世界を広げ、学び続ける姿
対話

身に付けてほしい力

基礎学力 生きる力 多様な
 主体性 自立 自分よき
 未来に希望を持ち今できること
 自ら考え行動できる 自分
 自己表現 アウトプットができる
 自分に責任をもって学習に向かう

<学校の姿>

教職員が安心して挑戦でき、
 様々な関係者から応援
 される姿
挑戦、応援される学校

<地域・企業・大学の姿>

ホンモノの体験・
 ホンモノの感動を
 共に味わう姿
ホンモノ



<みんなの姿>

変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する姿
学びの羅針盤

<学校の姿>

目指す学校像に向け、チームとして協働し、学び合い、成長を実感できる姿
教職員の学び・協働・成長

子供たち一人ひとりの多様な学びと学び方の選択・学び合いを支える姿
多様な学び・子供の選択

<家庭・地域の姿>

生き生きとした‘自分たちの学校’に向けて、見守り、応援し、ともに行動する姿
見守り・応援・協働



みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる



<みんなの姿>

自分と他者の多様な個性を認め合い、安心の下で挑戦し失敗し、ねばり強く乗り越える姿
インクルージョン

<学校の姿>

子供たち一人ひとりの多様な学びと学び方の選択・学び合いを支える姿
多様な学び・子供の選択

子供たち全員の居場所と参画・活躍の機会を支える姿
居場所、活躍

教職員が安心して挑戦でき、様々な関係者から応援される姿
挑戦、応援される学校



みんなの多様な学びと多様なしあわせをつくる



<みんなの姿>

自分たちで考え、語り合い学び合い、違いを力に世界を広げ、学び続ける姿
対話

<家庭・地域の姿>

ありのままを認め、生き生きと遊び、学べる環境を支える姿
尊重・舞台

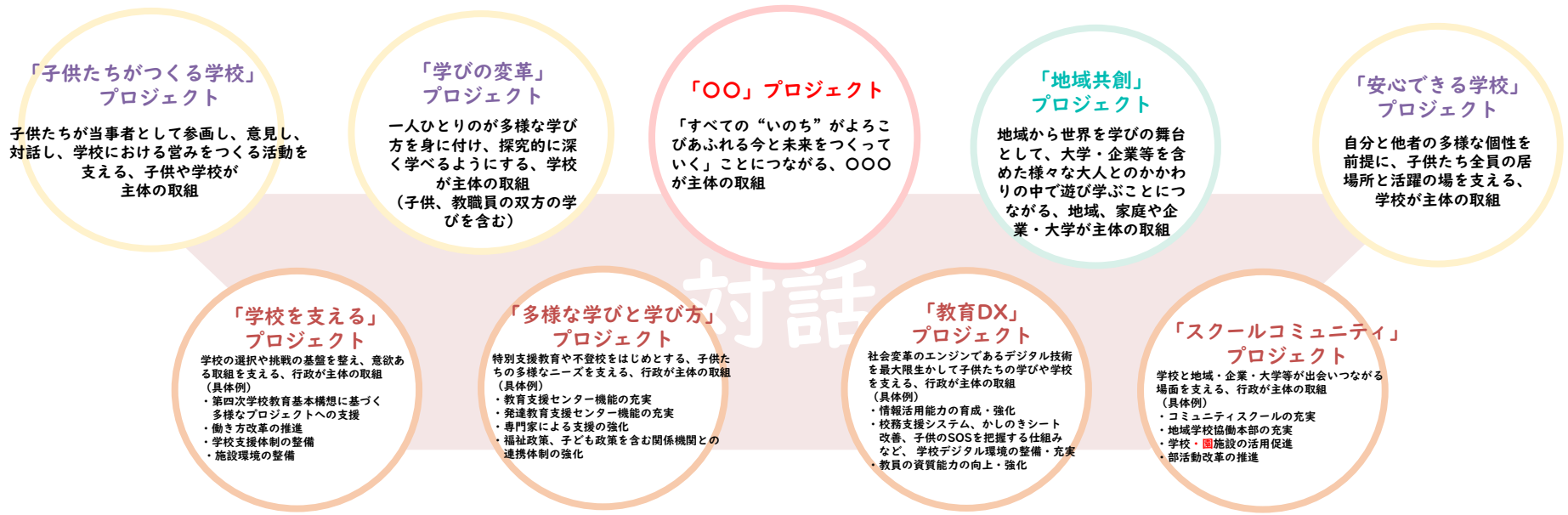
<地域・企業・大学の姿>

ホンモノの体験、ホンモノの感動を共に味わう姿
ホンモノ



社会と未来に開き、みんなでつくる

第4次学校教育基本構想の各項目 8 + プロジェクト



「子供たちがつくる学校」プロジェクト
 子供たちが当事者として参画し、意見し、対話し、学校における営みをつくる活動を支える、子供や学校が主体の取組

「学びの変革」プロジェクト
 一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする、学校が主体の取組
 (子供、教職員の双方の学びを含む)

「〇〇」プロジェクト
 「すべての「いのち」がよるこびあふれる今と未来をつくっていく」ことにつながる、〇〇が主体の取組

「地域共創」プロジェクト
 地域から世界を学びの舞台として、大学・企業等を含めた様々な大人とのかかわりの中で遊び学ぶことにつながる、地域、家庭や企業・大学が主体の取組

「安心できる学校」プロジェクト
 自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組

「学校を支える」プロジェクト
 学校の選択や挑戦の基盤を整え、意欲ある取組を支える、行政が主体の取組
 (具体例)
 ・第四次学校教育基本構想に基づく多様なプロジェクトへの支援
 ・働き方改革の推進
 ・学校支援体制の整備
 ・施設環境の整備

「多様な学びと学び方」プロジェクト
 特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える、行政が主体の取組
 (具体例)
 ・教育支援センター機能の充実
 ・発達教育支援センター機能の充実
 ・専門家による支援の強化
 ・福祉政策、子ども政策を含む関係機関との連携体制の強化

「教育DX」プロジェクト
 社会変革のエンジンであるデジタル技術を最大限生かして子供たちの学びや学校を支える、行政が主体の取組
 (具体例)
 ・情報活用能力の育成・強化
 ・校務支援システム、かしのきシート改善、子供のSOSを把握する仕組みなど、学校デジタル環境の整備・充実
 ・教員の資質能力の向上・強化

「スクールコミュニティ」プロジェクト
 学校と地域・企業・大学等が出会いつながる場面を支える、行政が主体の取組
 (具体例)
 ・コミュニティスクールの充実
 ・地域学校協働本部の充実
 ・学校・園施設の活用促進
 ・部活動改革の推進

《学校・園》

- 「子供たちがつくる学校」プロジェクト
 子供たちが当事者として参画し、意見し、対話し、学校における営みをつくる活動を支える、子供や学校が主体の取組
- 「学びの変革」プロジェクト
 一人ひとりの多様な学び方を身に付け、探究的に深く学べるようにする学校が主体の取組(子供、教職員の双方の学びを含む)
- 「安心できる学校」プロジェクト
 自分と他者の多様な個性を前提に、子供たち全員の居場所と活躍の場を支える、学校が主体の取組
- 「〇〇」プロジェクト
 「すべての「いのち」がよるこびあふれる「今」と「未来」をつくっていく」ことにつながる、〇〇が主体の取組

《行政》

- 「学校を支える」プロジェクト
 学校の選択や挑戦の基盤を整え、意欲ある取組を支える、行政が主体の取組
- 「多様な学びと学び方」プロジェクト
 特別支援教育や不登校をはじめとする、子供たちの多様なニーズを支える、行政が主体の取組
- 「教育DX」プロジェクト
 社会変革のエンジンであるデジタル技術を最大限生かして子供たちの学びや学校を支える、行政が主体の取組
- 「スクールコミュニティ」プロジェクト
 学校と地域・企業・大学等が出会いつながる場面を支える、行政が主体の取組
- 「〇〇」プロジェクト
 《家庭・地域、企業・大学》
- 「地域共創」プロジェクト
 地域から世界を学びの舞台として、大学・企業等を含めた様々な大人とのかかわりの中で遊び学ぶことにつながる、地域や家庭や企業・大学が主体の取組



➤ 構想を推進するための仕掛け(推進方策)を設置

《学校》

- 年度ごとに、重点的に取り組むプロジェクトを立ち上げ / 選択し、「学校経営方針」のもとに具体的な方策を位置付け、「学校評価」で活用・改善(指標例を活用)
- 教職員による第四次学校教育基本構想に基づく取組の共有

《家庭・地域》

- 学校運営協議会、地域学校協働本部、PTAなどを主体とした多種多様なプロジェクトを「地域共創プロジェクト」として位置付け、取組を共有・発信(任意)

《行政》

- 下段の4つのプロジェクトすべてについて、年度ごとに、その推進のための方策を「年度重点施策」に位置付け、「教育委員会評価」で活用・改善
- 子供・学校・家庭・地域のプロジェクトを支援